



...for patient comfort.

第32期 報告書

2011年4月1日 ~ 2012年3月31日

JL Japan Lifeline

証券コード：7575

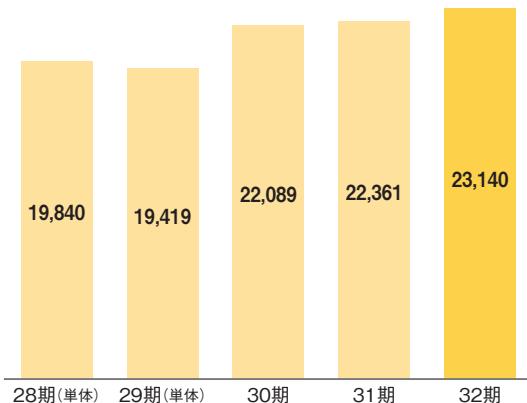
Financial Highlights

主要連結財務データ

※第30期より連結損益計算書を作成しております。

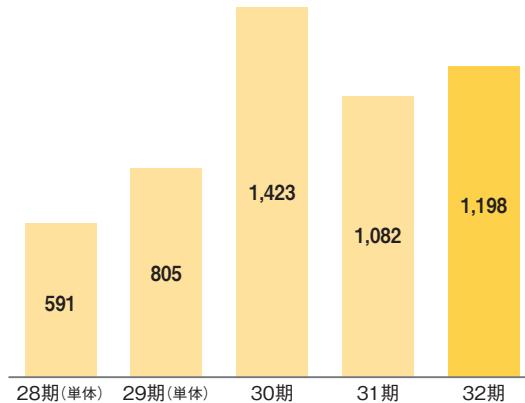
売上高

(単位:百万円)



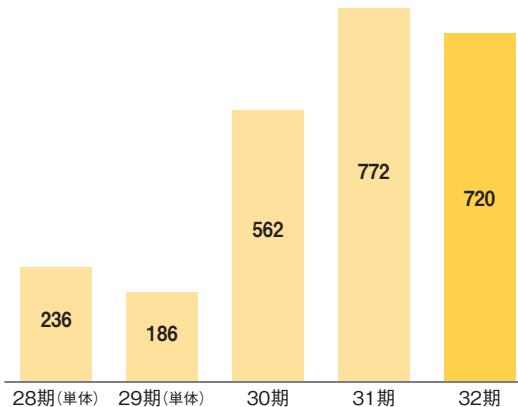
経常利益

(単位:百万円)



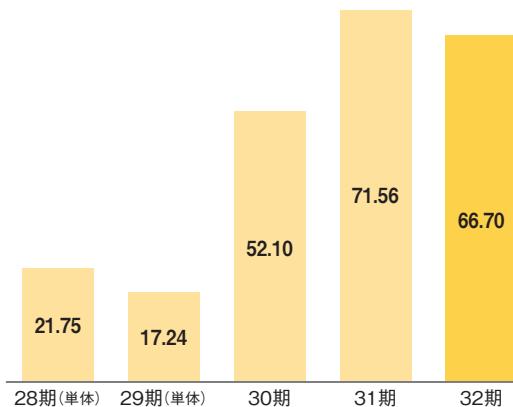
当期純利益

(単位:百万円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)



Q- 医療機器業界の概況について 教えてください。

A 医療機器業界におきましては、国の医療費抑制策の一環として、医療機器の公道価格である保険償還価格が継続的に引き下げられております。また、当社の取引先である医療機関におきましても、厳しい経営環境を反映して、共同購入への参加による仕入コスト低減等、経営合理化に向けた取り組みが広がりを見せております。

このような状況の中で、患者様の負担が少なく効率的な治療が可能となる医療機器に対するニーズが高まっていることから、メーカー各社は新規性の高い医療機器の開発および導入に注力しており、企業間の競争も激しさを増しております。

Q- 当期の業績はいかがでしたか？

A 当期の業績といたしましては、カテーテル類や人工血管等の自社製品が大きく伸長したことにより、売上高は前期を上回って推移いたしました。

利益面では、比較的収益性の高い自社製品の売上高構成比率が増加したことに加え、ペースメーカーリードにおいて自社ブランド商品への移行が進んだこと等により、売上総利益率は前期に比べ2.4ポイント改善いたしました。また、販売費及び一般管理費は、新製品の開発に



代表取締役社長 鈴木 啓介

積極的に取り組んだこと等により、前期に比べ増加いたしました。さらに、昨年12月のAGA Medical社製品の独占販売契約終了に伴い、薬事承認権譲渡益等を特別利益として計上した一方で、法人税率引き下げに伴う繰延税金資産の取り崩しを行った結果、最終利益段階では減益となりました。

以上のことより、平成24年3月期の連結業績は、売上高231億4千万円(前期比3.5%増)、営業利益11億4千7百万円(同17.9%増)、経常利益11億9千8百万円(同10.7%増)、当期純利益7億2千万円(同6.8%減)となりました。



Qー 販売の状況について教えてください。

A リズムデバイスにおきましては、心臓ペースメーカーの販売数量が増加した一方、ICD(植込み型除細動器)関連では競争環境が厳しさを増し、前期実績を下回ったことにより、売上高は前期水準に留まりました。

自社製品である不整脈診断用のEP(電気生理用)カテーテルは、心房細動治療等の増加に伴い、販売数量が前期に引き続き増加いたしました。また、不整脈治療に用いるアブレーションカテーテルは、競合製品の影響から減少を見込んでおりましたが、想定を上回って推移いたしました。

人工血管は、子会社製品の「J Graft(ジェイ・グラフト)」が高い評価を得ていることに加え、新工場の稼働により十分な供給量が確保されたことから、販売数量を順調に伸ばしました。また人工心臓弁は、治療方法が当社

の取り扱う機械弁から生体弁へと移行していることから、販売数量が減少いたしました。

インターベンションにおきましては、バルーンカテーテルの「LIFESPEAR(ライフスピーア)」が引き続き好調であったほか、自社製品であるガイドワイヤーにおきましては、独自の技術により耐久性と操作性を高めた「Athlete Spider(アスリート・スパイダー)」および「Athlete JOKER(アスリート・ジョーカー)」を発売し、拡販に努めてまいりました。

構造的な疾患治療器具につきましては、当社はパイオニアとして、その普及に努めてまいりましたが、昨年12月で販売を終了いたしました。現在は、4年後の上市を目指し、オクルテック社製品の導入準備を進めております。

Qー 来期の見通しはいかがでしょうか？

A 本年4月の保険償還価格の改定では、取り扱い商品全般にわたって価格の引き下げが実施され、心臓ペースメーカーの主力機種を引き下げ率が13.8%となるなど大幅なものとなりました。

このような状況の中、当社といたしましては、各商品の販売数量の増加に取り組むとともに、新商品を導入することにより、価格引き下げの影響を吸収するように努めてまいります。

来期の新商品といたしましては、当社のオンリーワン製品となる心腔内除細動システム「SHOCK AT(シヨック

ク・AT)」の発売を本年8月に予定しております。また、第3四半期には生体弁「Mitroflow(マイトロフロー)」の発売を予定しており、従来からの機械弁に加え、本年2月に発売した人工弁輪「MEMO 3D(メモ・スリーディー)」と合わせ、心臓弁膜症治療に対するトータルなサポートが可能となります。

これらの取り組みにより、来期の売上高は概ね当期と同水準になるものと見込んでおります。また、販売費及び一般管理費におきましては、一般的に経費節減に努める一方、研究開発等への投資については、中長期的な成長を成し遂げるためには欠かせないものであるため、重点的に実施していく予定です。

以上のことより、平成25年3月期の連結業績見通しは、売上高230億9千6百万円(前期比0.2%減)、営業利益9億2千3百万円(同19.6%減)、経常利益9億2千万円(同23.2%減)、当期純利益5億2千6百万円(同26.9%減)を見込んでおります。

Q—新製品の心腔内除細動システムについて教えてください。

A 心腔内除細動システム「SHOCK AT」は、カテーテルアブレーション治療の際に発生する致死性の不整脈である心房細動等に対し、心腔内で電気ショックを与えることで心臓を正常な状態に戻すものです。従来の体外式の除細動器に比べ、より小さなエネルギーで治療が行えることから、患者様の身体的負担を軽減することができま

す。また、独自のカテーテル構造や抵抗測定機能による高い安全性に加え、ケーブル接続や操作等がシンプルであることから、手術時間の短縮化、治療の効率化にも貢献いたします。

同製品の使用が見込まれる心房細動のアブレーション治療の症例数は、今後も増加が予想されております。さらに、現時点では当社のオンリーワン製品であることから、当社業績に大きく貢献するものと期待しております。

SHOCK AT

SHOCK AT用ジェネレータ



BeeAT

SHOCK AT用カテーテル



自社製品の開発および生産能力のさらなる拡充を目指して、本年1月には新たに「Medical Technology Park(メディカル・テクノロジー・パーク)」が稼働を開始いたしました。当社グループといたしましては、『病める人のために最新最適な医療機器を提供することを通じて社会貢献する』という企業理念の実現に向け、今後も優れた医療機器の開発・導入に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

リズムデバイス

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD (植込み型除細動器)
- CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)
- ホルター心電計

売上高

(単位: 百万円)



心臓ペースメーカにおきましては、「REPLY(リプライ)」が持つ商品の優位性を訴求した結果、販売数量が伸びました。

ICD (植込み型除細動器) 関連におきましては、競合各社ともにICD関連の市場を今後の成長分野と位置づけ、取り組みを強化する中、CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ) の新商品「PARADYM CRT-D (パラダイム CRT-D)」の拡販に努めましたものの、厳しい競争環境のもとで、販売数量が減少いたしました。

以上の結果、リズムデバイスの売上高は104億7千8百万円(前期比0.5%減)となりました。



心臓ペースメーカ

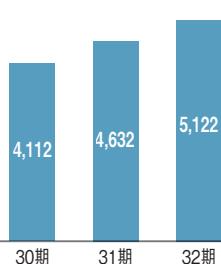
EP/アブレーション

主要取扱品目

- EP (電気生理用) カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 高周波発生装置

売上高

(単位: 百万円)

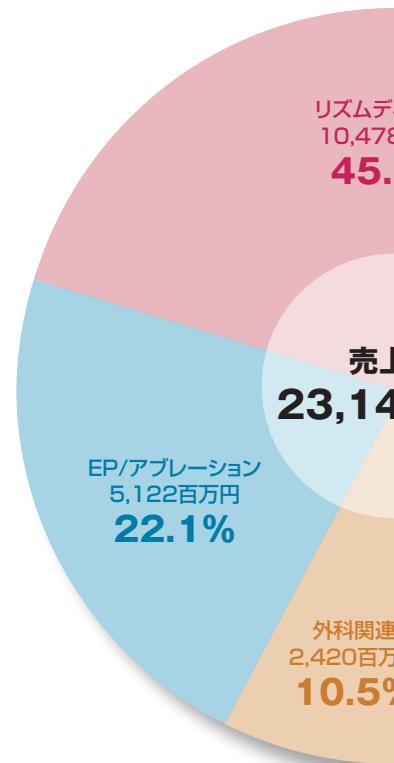


EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数が増加傾向にあることから、同治療の際に使用される「EPstar Libero (EPスター・リベロ)」等の製品を中心として、売上高は引き続き前年を上回って推移いたしました。また、アブレーションカテーテルにおきましては、競合製品の影響が一部ありましたものの、概ね前年同水準の売上高を維持いたしました。

以上の結果、EP/アブレーションの売上高は51億2千2百万円(前期比10.6%増)となりました。



EP (電気生理用) カテーテル

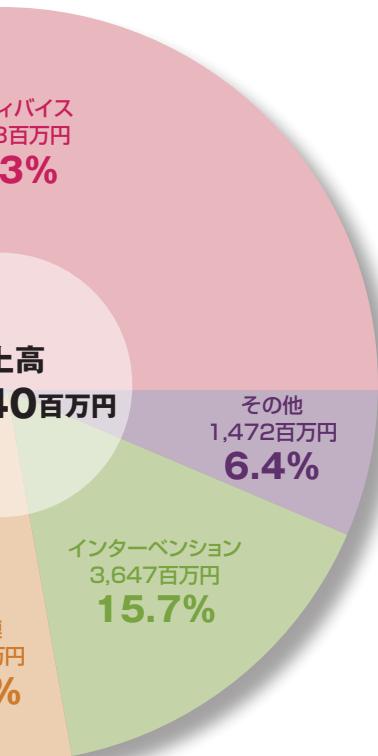


その他

主要取扱品目

- 血液浄化関連商品

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は14億7千2百万円(前期比3.3%減)となりました。



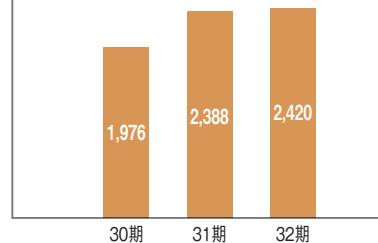
外科関連

主要取扱品目

- 人工血管
- 人工弁輪
- 人工心臓弁
- 人工肺

売上高

(単位：百万円)



人工血管におきましては、「J Graft(ジェイ・グラフト)」の性能が医療現場から高い評価を得ていることに加え、新工場の稼働により市場ニーズに対して潤沢な製品供給が可能となったことから、売上高は前期に比べ14.2%増加いたしました。

人工心臓弁におきましては、当社が取り扱う機械弁から生体弁へと治療方法が移行していることから、販売数量が減少いたしました。

また、人工心臓弁同様に心臓弁膜症の治療に用いられる人工弁輪におきまして、当社初の商品となる「MEMO 3D(メモ・スリーディー)」の販売を本年2月より開始いたしました。

以上の結果、外科関連の売上高は24億2千万円(前期比1.4%増)となりました。



インターベンション

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 心房中隔欠損閉鎖器具
- 動脈管開存閉鎖器具

売上高

(単位：百万円)



バルーンカテーテルにおきましては、「LIFESPEAR(ライフスピーア)」シリーズが発売以来、順調に販売数量を伸ばしており、売上高は前期に比べ22.0%増加いたしました。

自社製品のガイドワイヤーにおきましては、「ATHLETE Wizard(アスリート・ウィザード)」等が堅調に推移し、販売数量は前期に比べ6.4%増加いたしました。

なお、心房中隔欠損閉鎖器具および動脈管開存閉鎖器具につきましては、昨年12月に販売を終了いたしました。

以上の結果、インターベンションの売上高は、36億4千7百万円(前期比11.0%増)となりました。



●資産合計

資産合計は前期末に比べ25億2千万円増加し、262億3千万円となりました。これは受取手形及び売掛金の増加等により、流動資産が3億6千1百万円増加したこと並びに「Medical Technology Park」の竣工等により、固定資産が21億5千8百万円増加したことによります。

●負債合計

負債合計は前期末に比べ21億4千7百万円増加し、111億6千2百万円となりました。これは短期借入金の増加等により、流動負債が20億1千5百万円増加したこと並びに長期未払金が減少した一方で、長期借入金および退職給付引当金が増加したこと等により、固定負債が1億3千2百万円増加したことによります。

●純資産合計

純資産合計は前期末に比べ3億7千2百万円増加し、150億6千7百万円となりました。これは剰余金の配当を実施したことおよび当期純利益を計上したこと等によります。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	32期(当期)	31期(前期)
	平成24年3月31日現在	平成23年3月31日現在
資産の部		
流動資産	17,571	17,209
現金及び預金	2,594	2,669
受取手形及び売掛金	6,842	6,557
たな卸資産	6,713	6,702
その他の流動資産	1,421	1,280
固定資産	8,658	6,500
有形固定資産	4,222	2,942
無形固定資産	39	49
投資その他の資産	4,396	3,508
● 資産合計	26,230	23,710
負債の部		
流動負債	8,088	6,072
支払手形及び買掛金	1,454	1,542
短期借入金	3,870	2,170
その他の流動負債	2,763	2,360
固定負債	3,074	2,942
● 負債合計	11,162	9,015
純資産の部		
株主資本	15,088	14,692
資本金	2,115	2,115
資本剰余金	2,328	2,328
利益剰余金	10,996	10,600
自己株式	△351	△351
その他の包括利益累計額	△21	2
その他有価証券評価差額金	△21	2
● 純資産合計	15,067	14,694
負債純資産合計	26,230	23,710

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	32期(当期)	31期(前期)
	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
売上高	23,140	22,361
売上原価	11,198	11,355
売上総利益	11,942	11,006
販売費及び一般管理費	10,794	10,033
営業利益	1,147	973
営業外収益	87	135
営業外費用	36	26
経常利益	1,198	1,082
特別利益	464	617
特別損失	70	76
税金等調整前当期純利益	1,592	1,623
法人税等	872	850
少数株主損益調整前当期純利益	720	772
当期純利益	720	772

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	32期(当期)	31期(前期)
	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,353	1,273
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,988	△2,443
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,560	600
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△74	△569
現金及び現金同等物の期首残高	3,074	3,644
現金及び現金同等物の期末残高	3,000	3,074

●売上総利益

心臓ペースメーカーリードにおいて、自社ブランド品「J-Line(ジェイ・ライン)」への切り替えが進んだことに加え、収益性の高い自社製品の売上高構成比率が増加したことにより、売上総利益率は2.4ポイント改善いたしました。

連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

32期(当期) 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	株主資本					その他の包括利益累計額	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	
平成23年4月1日残高	2,115	2,328	10,600	△ 351	14,692	2	14,694
連結会計年度中の変動額							
剰余金の配当			△ 324		△ 324		△ 324
当期純利益			720		720		720
自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						△ 23	△ 23
連結会計年度中の変動額合計	—	—	396	△ 0	396	△ 23	372
平成24年3月31日残高	2,115	2,328	10,996	△ 351	15,088	△ 21	15,067

会社概要

(平成24年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結581名 単体509名
上場取引所	大阪証券取引所 JASDAQ市場
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社

役員

(平成24年6月27日現在)

代表取締役会長	増本 武司	常勤監査役	上田 勝啓
代表取締役社長	鈴木 啓介	監査役	苅米 裕
専務取締役	鈴木 厚宏	監査役	中村 勝彦
専務取締役	政次 浩二		
取締役	長濱 岳司		
取締役	黒沼 孝之		
取締役	高橋 省悟		
取締役	佐々木文裕		

事業所

(平成24年4月1日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
ディストリビューションセンター
天王洲Accademia
- 営業所25、出張所8



- 最新の会社情報およびIR情報は
当社ホームページをご覧ください。

<http://www.jll.co.jp>



投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は、当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。

株式の状況

(平成24年3月31日現在)

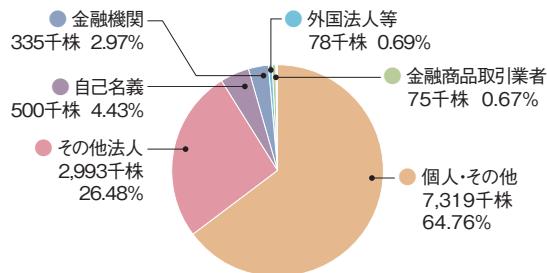
発行可能株式総数	43,300,000株
発行済株式の総数	11,302,497株
株主数	4,491名

大株主

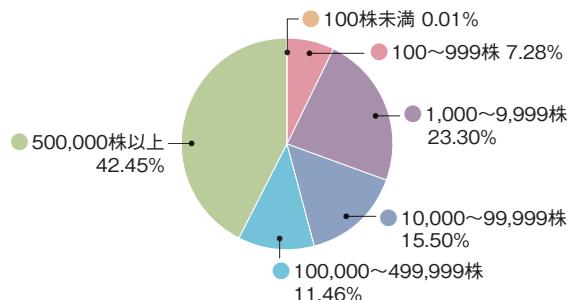
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	2,870	26.57
鈴木啓介	1,427	13.21
増本武司	457	4.24
日本ライフライン従業員持株会	164	1.52
上田勝啓	134	1.24
長濱岳司	116	1.07
加藤力蔵	113	1.05
朝日火災海上保険株式会社	110	1.02
日本生命保険相互会社	100	0.93
株式会社千葉銀行	100	0.93

(注) 1. 上位10名に記載していない500,473株を、自己株式として保有しております。
 2. 持株比率は、自己株式(500,473株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布



所有数別株式分布



○株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711(通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等

- ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

2.未受領の配当金について

未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002

東京都品川区東品川二丁目2番20号

電話 03-6711-5200

URL <http://www.jll.co.jp>